

「アオリイカ」 湾内を南北に行き来

春と秋に姿現す

釣りをする人であれば良くご存じのとおり、富山湾では秋になるとアオリイカが釣れる。もっとも、もっとよく釣りをする人は春にもアオリイカが釣れることをご存じかも知れない。アオリイカは春と秋の2回、富山湾に姿を現す。

春と秋のアオリイカの違いはその大きさである。春は大きく、秋は小さい。アオリイカの寿命は1年で、春に産卵することが知られている。だから、春は親であり、秋はそれらから生まれた子供たちということになる。

親の大きさは雌と雄で異なり、雄では胴の長さで30cmを超えるが、雌は25cmぐらいだ。お盆を過ぎた頃から、3cmほどの子供たちが現れ、最も多く漁獲される11月ごろには約15cmに成長する。

春にとれる親の量は多くても数百キログラムであるのに対し、秋の子供は多い年で数百トンに達する。親に比べて、子供の量が余りにも大きいので、富山湾以外で生まれた子供も含まれていると考えられる。アオリイカは、日本海の西の海域に多く、そこで生まれた子供が水温の高い時期に日本列島に沿って北上し、水温が低くなる秋になって、西へ戻るときに富山湾に入ってくるものと思われる。

富山湾で秋に漁獲されたアオリイカに、印を付けて放流したことがある。富山市四方や氷見市沖で放したものは、石川県七尾市や能都町沖で捕まった。そこで、能都町沖で放流してみたところ、今度は魚津市や富山市岩瀬沖で捕まった。つまり、富山湾の中を南北にぐるぐる回っているのではないかと想像される。日本海に突き出た能登半島と引っ込んだ富山湾という地形がなせるわざかも知れない。(林清志)



春と秋に富山湾に姿を現すアオリイカ